

情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

東日本大震災から 10 年

被災者に寄り添い、支援・連帯の輪を広げよう

東日本大震災から3月11日で10年が経過しました。津波に襲われた岩手、宮城両県の沿岸部には高い防潮堤が建設されました。福島県では、東京電力福島第1原発事故で、今なお帰還できない人が多くいます。

警察庁によると死者は1万5,899人・行方不明者2,526人、震災後の体調悪化や自殺による震災関連死は3,767人にのぼります。また、未だに4万1,241人の被災者が故郷を離れ避難生活を余儀なくされています。東京電力福島第一原発事故による帰還困難区域は、福島県の7市町村となりましたが、解除の見通しは立っていません。国は、復興庁の設置期限を2030年度末まで延長しましたが、投じられる予算は1兆6千億円と大きく減りました。

被害が大きかった岩手、宮城、福島3県42市町村の9割で、震災前より人口が減り、減少率は6%で全国の3.5倍にのぼりました。各地域で高齢化が進み、働き手世代の流出も止まりません。人が戻れない、戻らない被災地は10年の歳月を経てもなお復興が途上である現実を突きつけています。このような状況にも関わらず政府や各県の自治体は被災者支援や健康調査の打ち切りを決定しています。そして、コロナ禍によって被災者の生活は更に苦しくなっています。

先月2月13日には東北地方で震度6強の地震が発生しました。福島県だけでも3,300棟を超える住宅被害、100人以上の負傷者が出るなど、改めて地震の怖さを思い知ることになりました。復興はまだ道半ば。私たちは、改めて震災を振り返り、被災者に寄り添い、思いを馳せ、共に歩んでいきましょう。



2011年7月撮影 宮城県気仙沼市

海水が残る気仙沼線南気仙沼駅 (組合員提供)



2011年5月撮影 岩手県釜石市

釜石港に乗り上げた貨物船 (組合員提供)



2011年5月撮影 岩手県釜石市

津波によって転覆した漁船 (組合員提供)